

# 公同礼拝

2024年4月7日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 匠米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩 編 68編20～21節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

申命記 8章1～10節 (旧294)

マタイによる福音書21章18～22節(新41)

祈 祷

使徒信条

役員(長老) 教会学校校長 教会学校教職員任職式

讃 美 歌 20

説 教 「信じて祈るなら」 牧師 高橋和人

祈 祷

讃 美 歌 303

聖 餐 式

献 金

頌 栄 543

祝 祷

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 4月の祈り

主イエスの復活の光に導かれ、この世の栄えではなく信仰によって見出される恵みの光を仰ぐ歩みを進めることができるように。

礼拝と祈祷会を重んじる教会生活を大切にし、身に付いたものとなるように。

新年度の歩みが御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

## 今日の祈り

教会の様々な働きを奉仕者一人一人の働きが主の恵みによって力づけられるように。

教会学校の子どもたちが神と人とに愛されて信仰の恵みに導かれるように。

幼稚園の始園式・入園式が祝されるように。新たな歩みに向かう人々が祝されるように。

体調を心と体に弱さを負う人々に主が寄り添ってくださるように。

「信じて祈るなら」 高橋和人

マタイによる福音書21章18～22節

主イエスの受難週の記事に戻ってきた。復活をより深く知るためには十字架への歩みを思い出さなければならない。

主は入城と宮清めの後に、道端のいちじくに目をとめられた。主は空腹であったが、いちじくは葉ばかりで実をつけていなかった。主が「お前には実がないように」と言われると、いちじくは枯れてしまった。主イエスは不機嫌でいらだっているように見える。説明や納得を退けるような出来事だ。考

えさせられる。

旧約はいちじくの木はぶどうとともに約束の地の豊かさを示す。実らないいちじくは恵みを失った姿だ。イスラエルの豊かさはいちじくの実りによって現わされる。イスラエルはいちじくに重ねられる。人々の希望はぶどうといちじくの木の下に憩うこと(ミカ4:4、ゼカ3:10)と表現される。

この個所は宮清めに続く。神殿が祈りの家ではなく強盗の巣となっていた。主は神殿に巣食う偶像である人の利を除かれた。それは、人に仕え利益をもたらし、祈りなしに神殿を占拠していた。

いちじくは約束の地の豊かさにふさわしく実を結ぶもの。しかし、主イエスへの実りはなかった。

実りをもたらさないものは枯れてしまう。神の民であることを失ったものは失われてしまう。そして、神の像に造られながら、その恵みを失った人間も失われるものになっている。しかし、主イエスはこの罪をご自分の身に負われた。

主イエスは弟子たちの問いに、「あなたがたも信仰を持ち、疑わないならば、いちじくの木に起こったようなことができる」と答えた。「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」と言われる主は「わたしの願い通りではなく、御心のままに」26:39と祈られた。

祈りにおいて、得られるのは、神に結ばれることだ。パウロは「山を移すほどの完全な信仰があろうとも、もし愛がなければ、無に等しい」Iコリ13:2という。われらは祈りの家とされた。自由に祈ることができる。そして、信じて祈りもとめることは、主に救われ愛されることだ。主の愛は祈りによらなければ知ることができない。

主は祈りを求めてくださる。それが信仰の実りだからだ。